南種子町平山の座敷舞

【所　在　地】熊毛郡南種子町平山（平山郷土文化保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 43 年 3 月 29 日

座敷舞の一つ　鳥刺舞

座敷舞は祝宴の座において自然に踊られるもので，同座の者たちが，「ミイサイナ　ミイサイナ」（見せてほしいという意）とはやすと，一人の踊り手が座の中央に出て，物まね的な所作でおもしろおかしく踊る舞である。

舞の種類としては竿の先に山もちをつけて，鳥を生けどるしぐさの「鳥刺舞」，蟹が横ばいのかっこうして踊る「ガニ舞」，婆さんが米里・野里・浜里の娘に招かれ，米飯・粟飯・亀の煮物をしいられて困る「婆じょう舞」，仏とは何かと問うて，おもしろく問答する「仏舞」，その他「味噌すり舞」などがある。

鳥刺舞は，全国的な分布をみているといわれているが，蟹舞，婆じょう舞，仏舞，味噌すり舞などは全国でもここしかない。たいへん珍しく貴重な芸能である。鳥刺舞は中央から伝播されたものであろうが，他のものは言葉の中に種子島方言がふんだんにあることからもわかるように種子島でできたものと思われる。南種子町島間上方には，バックー（蟇 ）舞いという珍しい座敷舞もある。座敷舞はユーモラスで庶民的な味わいのある芸能である。

平成７（1995）年 12 月 26 日，「種子島南種子の座敷舞」として，記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として国により選択された。